

# 2023 年度 全国総会「兵庫大会」資料

2023 年 6 月 3 日（土） / 4 日（日）

（於：兵庫県姫路市）

全国頸髄損傷者連絡会

## 2023 年度 全国総会資料目次

I	2022 年度 本部活動報告	2
II	2022 年度 支部活動報告	4
	栃木頸髄損傷者連絡会	4
	東京頸髄損傷者連絡会	4
	神奈川頸髄損傷者連絡会	5
	愛知頸髄損傷者連絡会	5
	頸髄損傷者連絡会・岐阜	6
	京都頸髄損傷者連絡会	6
	大阪頸髄損傷者連絡会	8
	兵庫頸髄損傷者連絡会	10
	香川頸髄損傷者連絡会	14
	愛媛頸髄損傷者連絡会	15
	徳島頸髄損傷者連絡会	16
	九州頸髄損傷者連絡会	16
	福島連絡所	16
III	2022 年度 収支報告書・監査報告書	17
IV	頸損者を取り巻く現状と課題	18
	・障害者の権利保障	18
	・介助制度	18
	・交通・まちづくり	19
	・福祉用具(補装具・日常生活用具)	20
	・医療関係	21
	・住宅環境	22
	・所得保障・就労	22
	・女性の権利	23
V	2023 年度 活動方針提起	25
VI	2023 年度 予算案	28
VII	2023 年度 本部役員・事務局体制案	29

# 2022年度 本部活動報告

[2022年]

- ・4月 全国機関誌「頸損136号」発行（編集会議4回）
- ・4月9日 オンラインランチミーティング（オンライン）  
第2回To be yourself「電動車椅子」（オンライン）
- ・4月15日 排泄基礎調査第11回実行委員会（オンライン）
- ・4月16/17日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・4月17日 日本マンション学会千葉大会第77分科会演題発表（オンライン）
- ・4月23日 第1回川内アクセス塾2022へ参加（オンライン）
- ・4月24日 本部会計業務引継ミーティング（オンライン）
- ・4月26日 日本リハビリテーション工学協会・第9回合同シンポジウム打ち合わせ（オンライン）
- ・4月30日 排泄基礎調査・報告書作成最終調整ミーティング（練馬区立区民・産業プラザ研修室）
- ・5月7日 京都頸髄損傷者連絡会・定例会オブザーバー参加（オンライン）
- ・5月8日 排泄基礎調査第12回実行委員会（オンライン）
- ・5月14日 オンラインランチミーティング（オンライン）
- ・5月27日 排泄基礎調査・報告会最終調整ミーティング（オンライン）
- ・5月28日 日本リハビリテーション工学協会・第9回合同シンポジウム登壇（オンライン）
- ・5月28/29日 DPI日本会議・全国集会（オンライン）
- ・6月 排泄基礎調査報告書発行
- ・6月4/5日 第49回全国頸髄損傷者連絡会総会（オンライン）
- ・6月8/9日 バリアフリー2022総合福祉展参加（インテックス大阪）
- ・6月11日 オンラインランチミーティング（オンライン）
- ・7月1日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・7月9日 オンラインランチミーティング（オンライン）
- ・7月14日 セキソンから広がるオンラインコミュニティ「再！発見」講演（オンライン）
- ・7月16日 第3回To be yourself「介護リフト」（オンライン）
- ・7月16日 第4回川内アクセス塾2022へ参加（オンライン）
- ・7月30日 障害者と障害のない人がともに働くためのフォーラム2022  
～改正障害者雇用促進法成立後の動向から障害者の一般就労の  
現状と課題を考える～（オンライン）
- ・8月 全国機関誌「頸損137号」発行（編集会議4回）
- ・8月6/7日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・8月13日 オンラインランチミーティング（オンライン）
- ・8月20/21日 第36回リハ工学カンファレンスfrom中国・四国支部・演題発表&登壇（オンライン）
- ・9月4日 全国頸損代表者会議（オンライン）
- ・9月10日 オンラインランチミーティング（オンライン）
- ・9月17日 第6回川内アクセス塾2022へ参加（オンライン）
- ・9月24日 第4回To be yourself「介護リフト」（オンライン）
- ・10月2日 神奈川支部役員会オブザーバー参加（オンライン）

- ・10月5/6/7日 第49回HCR国際福祉機器展参加（東京ビッグサイト）
- ・10月8日 オンラインランチミーティング（オンライン）
- ・10月11日 全国脊髄損傷者連合会・省庁交渉2022参加（オンライン）
- ・10月15日 第5回To be yourself「就労」（オンライン）
- ・10月15/16日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・10月29日 第13回 福島・栃木・東京・神奈川 4都県合同交流会（オンライン）
- ・11月6日 「骨格提言」の完全実現を求める大フォーラム2022賛同
- ・11月7日 第16回 四国頸損の集い2021（オンライン）
- ・11月12日 オンラインランチミーティング（オンライン）
- ・11月14日 セキソンから広がるオンラインコミュニティ「再！発見」講演（オンライン）
- ・11月19日 高知ふくし機器展オープンセミナー講師（高知ちばさんセンター）
- 第6回To be yourself「一人暮らし2」（オンライン）
- ・11月26日 第8回川内アクセス塾2022へ参加（オンライン）
- ・12月 全国機関誌「頸損138号」発行（編集会議4回）
- ・12月3/4日 第11回DPI障害者政策討論集会（オンライン）
- ・12月9日 日本身体障害者補助犬学会・航空関係者向け車いすセミナー  
(中部国際空港セントレアホール)
- ・12月10日 オンラインランチミーティング（オンライン）
- ・12月12日 全国脊髄損傷者連合会との意見交換会（オンライン）
- ・12月16日 厚生労働省副大臣へ要望書提出（厚生労働省）
- ・12月17/18日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）

#### [2023年]

- ・1月14日 オンラインランチミーティング（オンライン）
- ・1月28日 第6回災害リハビリテーション支援研修会（オンライン）
- ・1月29日 排泄シンポジウム登壇者打ち合わせ（オンライン）
- ・2月10日 排泄シンポジウムスタッフ打ち合わせ（オンライン）
- ・2月11日 オンラインランチミーティング（オンライン）
- ・2月18日 排泄シンポジウム（神戸学院大学・神戸三宮サテライト）
- ・2月18/19日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・2月26日 第7回To be yourself「一人暮らし3」（オンライン）
- ・3月5日 全国頸損代表者会議（兵庫県姫路市・BIZ SPACE HIMEJI&オンライン）
- ・3月11日 オンラインランチミーティング（オンライン）
- ・3月13日 全国脊髄損傷者連合会との意見交換会（オンライン）

#### 【日常・継続的活動】

- 全国総会（年1回）、代表者会議（年2回）等を定期的に開催し、問題点の掘り起こし、且つ共有を図り、頸髄損傷者をはじめとする重度障害者の生活向上のための活動を行っている。昨年度は会場とオンライン（Web会議ツール「Zoom」を使用）で開催した。
- DPI 日本会議の会員団体として積極的に参加し、障害者運動全体の中での役割を果たしている。常任

委員として副会長・村田恵子氏が常任委員会や分科会に出席している。

- 本部運営を円滑に行うため、毎週水曜日の16:00～17:00に役員および運営への協力要請に応じてくれる頸髄損傷者メンバーによるオンラインミーティングを実施している。
- 日本リハビリテーション工学協会理事（事務局次長・鈴木太氏）等の関係団体役員及びメンバーとして積極的・継続的に活動している。
- 福祉機器開発に際してスタッフの一員として、またはモニター等に積極的に参加し、当事者としての意見発信をしている。
- 電車・バスなど公共交通運営各社との交渉等、障害者の生活圏拡大のための活動に参加している。
- 一般社団法人 日本福祉用具・生活支援用具協会（JASPA）が行うISO活動における各分科会に委員として事務局長・宮野秀樹氏が出席し協力をしている。
- 全国本部への会員・家族・関係者からの相談・質問への対応をしている。  
各支部からの相談に対して、他の支部の協力も得て、解決への方向を共に探っている。
- 会員・関係者（団体）への情報発信、活動の報告のために、全国機関誌『頸損』を4月・8月・12月の年3回定期的に発行している。機関誌編集のための会議を各号4回行っている。  
その他の資料提供を行っている。  
全支部参加のメーリングリスト等を活用し、情報の相互発信を行っている。
- 重度障害者の生活向上に有益な、調査・研究のためのアンケート調査等への協力を行っている。

## 2022年度 支部活動報告

### 栃木頸髄損傷者連絡会

2022年

- 7月 総会（オンライン）
- 10月 4都県合同交流会（オンライン）

### 東京頸髄損傷者連絡会

2022年度

- 4月 お花見(中止)
- 5月 東京都障害者団体連絡協議会 書面開催
- 6月 全国頸髄損傷者連絡会総会 WEB方式
- 7月 東京都障害者社会参加推進協議会 書面開催
- 9月5日 秋の全国代表者会議 WEB会議
- 10月 国立障害者リハビリテーションセンター並木祭 中止
- 10月29日 4都県合同交流会 WEB方式
- 11月 東京・神奈川合同交流会（横浜） 中止
- 2月 勉強会 中止

2月18日	頸髄損傷者の生活に求められる排泄環境シンポジウム	WEB方式
3月6日	全国頸損代表者会議	WEB方式
3月	運営会議	WEB方式

- ※ 新型コロナウイルス感染症のため、ほとんどの活動が中止またはWEB方式、書面開催に変更。他団体との合同交渉等も同様。
- ※ 全国頸損「To be yourself」第2回～6回に参加。
- ※ 各支部交流会及び勉強会等に参加。
- ※ メーリングリスト等による情報提供。

## 神奈川頸髄損傷者連絡会

令和4年度

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していたすべての活動を中止にしました。

## 愛知頸髄損傷者連絡会

令和4年

4月26日	第1回 愛知頸損連絡会実行委員会	(Zoom)
5月	【中止】わだちまつり	(AJU 自立の家)
6月3日～5日	全国頸髄損傷者連絡会 総会「四国大会」	(Zoom)
	第23回愛知頸髄損傷者連絡会 年次総会	(書面にて実施)
6月24日	第2回 愛知頸損連絡会実行委員会	(Zoom)
8月9日	第3回 愛知頸損連絡会実行委員会	(Zoom)
8月21日	頸損・岐阜、愛知「合同オンライン交流会」	(Zoom)
10月4日	第4回 愛知頸損連絡会実行委員会	(Zoom)
10月16日	オンライン交流会	(Zoom)
10月25日	第5回 愛知頸損連絡会実行委員会	(Zoom)
11月3日	ワインフェスタ 2022 (多治見修道院ワイナリー)	
11月28日	第6回 愛知頸損連絡会実行委員会	(Zoom)
12月11日	オンライン交流会+忘年会	(Zoom)
	今年のとっておきの1枚(写真)や出来事など	

令和5年

2月14日	第7回 愛知頸損連絡会実行委員会	(Zoom)
2月19日	オンライン交流会	(Zoom)
	「元会長の近藤実男さん、前会長の近藤光利さんを偲ぶ会」	

## 頸髄損傷者連絡会・岐阜

### 【2022年】

- 5月29日 オンライン役員会
- 6月4,5日 全国頸髄連絡会総会 四国大会 オンライン総会
- 6月16日 夢旅人6月号  
・支部総会の案内
- 7月17日 2022年度頸髄損傷者連絡会・岐阜 総会 オンライン総会
- 8月4日 夢旅人8月号  
・岐阜愛知「合同オンライン交流会」の案内
- 8月21日 岐阜愛知「合同オンライン交流会」
- 9月4日 オンライン代表者会議
- 10月16日 岐阜愛知「合同オンライン交流会」
- 12月1日 夢旅人11月号  
・岐阜愛知「合同オンライン交流会+忘年会」の案内
- 12月11日 岐阜愛知「合同オンライン交流会+忘年会」

### 【2023年】

- 3月5日 オンライン代表者会議

## 京都頸髄損傷者連絡会

### 【2022年度活動報告】

- ◆定例会議:毎月1回(原則、第1土曜日)
- ◆「頸損ニュース」発行
- ◆京都障害者防災会議:毎月1回(原則、第2火曜日)
- ◆障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会役員事務局会議(不定期開催)
- ◆DPI常任委員会:2ヶ月に1回
- ◆DPI女性障害者ネットワーク定例会議:毎月1回
- ◆滋賀県優生保護法情報公開請求訴訟事務局会議:適宜開催
- ◆全国優生保護法問題の全面解決をめざす連絡会全体会議:適宜開催
- ◆ウィメンズカウンセリング京都職員ステップアップ講座:適宜開催

### 【2022年】

- 4月23日 京都頸髄損傷者連絡会定期総会
- 4月25日 障害女性の生きづらさ実態調査報告書改訂PTミーティング
- 5月10日 優生保護法問題の全面解決をめざす全国連絡会院内集会
- 5月17日 京都市要望交渉

- 5月24日 京都府・京都市要望交渉
- 5月28日 29日 DPI 全国集会
- 5月30日 障害女性の生きづらさ実態調査報告書改訂 PT ミーティング
- 5月31日 京都市要望交渉
- 6月4日 5日 全国頸髄損傷者連絡会定期総会・全国脊髄損傷者連合会
- 6月13日 京都市都市計画審議会
- 6月21日 滋賀県優生保護法被害者情報公開請求訴訟期日報告集会
- 6月22日 障害女性の生きづらさ実態調査報告書改訂 PT ミーティング
- 8月5日 障害女性の生きづらさ実態調査報告書改訂 PT ミーティング
- 8月9日 洛西ふれあいの里問題 京都市との懇談
- 8月24日 井上吉郎氏ご葬儀参列
- 9月4日 全国頸髄損傷者連絡会代表者会議
- 9月5日 障害女性の生きづらさ実態調査報告書改訂 PT ミーティング
- 9月13日 京都市障害者施策推進審議会
- 9月13日 滋賀県優生保護法被害者情報公開請求訴訟期日報告集会
- 9月15日 全国介護事業者連盟京都府支部障害者部会との懇談
- 9月21日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会定期総会
- 9月22日 優生保護法問題の全面解決をめざす関西集会
- 9月25日 新潟から京都への地域移行面談
- 10月18日 地域移行にかかる意見交換
- 10月19日 障害女性の生きづらさ実態調査報告書改訂 PT ミーティング
- 10月25日 優生保護法問題の全面解決をめざす全国集会
- 10月27日 国連障害者権利委員会報告会ミーティング
- 11月9日 京都デザインフォーラムミーティング
- 11月14日 国連障害者権利委員会報告会ミーティング
- 11月19日 国連障害者権利委員会報告会
- 11月24日 SAP 職員研修
- 11月27日 臨時定例会議
- 12月3日 4日 DPI 政策討論集会
- 12月8日 京都市交通局 JCIL との合同交渉
- 12月13日 滋賀県優生保護法被害者情報公開請求訴訟期日報告集会
- 12月21日 障害女性の生きづらさ実態調査報告書改訂 PT ミーティング
- 12月21日 オプテックスヒアリング調査協力
- 【2023年】**
- 1月14日 全国介護事業者連盟京都府支部障害者部会との意見交換



1月16日	京都デザインフォーラムミーティング
1月21日	京都デザインフォーラム
3月24日	滋賀県優生保護法被害者情報公開請求訴訟期日判決報告会
3月28日	優生保護法問題の全面解決をめざす院内集会

## 大阪頸髄損傷者連絡会

### － 2022年度活動総括－

● 2019年に国内で確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は変異を繰り返し3年が過ぎた。ワクチン接種は段階的に接種間隔が短縮され5回目が実施された。感染者数も月ごとに変化しながらも減少しつつある。ただしわれわれの仲間が感染したケースでは自宅療養をする者も多く、感染後の後遺症が原因で会活動ができなくなり退会する者もいた。また、入院した場合には頸損者に向けた入院中のケアが不十分でコロナは回復し退院したが、帰宅後に感染前の生活に戻れなくなり辛い日々を送っているという声がある。飲み薬などの開発も進まない中、類型は2類から5類に変わり季節性インフルエンザと同様とする方針が打ち出された。頸損者にとっては自己管理がより重要な課題となる。

● 勉強会は、7月に音声認識リモコン『LisPee360（リスピー360）』の製品紹介を兼ねたミニ学習会を役員会後に開催した。ネット環境を使用しないで音声で家電操作ができる製品で、勉強会後に導入した方の体験情報を機関紙にて報告した。2月に大阪急性期・総合医療センターと共同で準備し「第6回災害リハビリテーション支援研修会」を共催した。第1部で株式会社フィリップス・ジャパン・営業戦略部の釜屋裕美さんから大規模災害時のサポート体制についてお話しいただきました。第2部は平成23年3月11日の東日本大震災の当日、訪問リハビリで女川町のお宅を訪問中に被災され何とか津波の被災から逃れた体験をお話しいただきました。想像を絶する大地震と津波に遭遇した時、訪問に出ている現場で瞬時にどのような行動がとれるのだろうか？マニュアルにできない、答えのない難しいテーマではないでしょうか？コロナ禍のためオンラインで実施し63名の参加があった。他支部や一般の参加者も多く関心の高さがうかがえた。勉強会の内容は機関紙「頸損だより」にも特集組みにして、参加できなかった方たちにも知ってもらえるようにする。

● 親睦交流企画では、7月にコロナ感染者数が減少したためピアホール交流会の下見などの準備を行ったが開催予定日に感染者数が急増したため急遽中止になった。その後の企画も同様にコロナ感染拡大防止のため行事として直接集まる企画は次々と中止になった。1月に「新年会」を今回もオンラインで開催した。大阪公立大（元府立大）作業療法学専攻の学生たちの協力を得て準備を進め、18名の参加があった。みなさんオンラインにも慣れクイズやゲームなど多くの企画で楽しめて良い交流の場となった。

● ピアサポートとしては、コロナ禍の中これまで継続して取り組んできた、会員が入院中の頸損者に自分の受傷後の体験を対面で伝えることができなかったが、大阪急性期・総合医療センターではオンラインの活用で3回のサポートをおこなった。星ヶ丘医療センターでもオンラインを活用して3回のサポートをおこなった。その他にも対面式のサポートはできなかったが、個別に電話やオンラインによる相談対応などのセルフヘルプ活動も、役員や事務局メンバーを中心に取り組んだ。

- 役員として長年にわたり会計監査を務めてくださった太田康裕から横山和也に引き継がれた。

以上が 2022 年度の特筆すべき点である。

## － 2022 年度活動報告 －

※なお、主催☆、共催★、参加◆とする

### ◎親睦交流企画・他

- ☆ 4 / 24 (日) 大阪支部総会 オンライン
- ☆ 1 / 15 (日) 新年会「卯ルトラハッピーニューイヤー！  
卯き卯きピョンピョン飛躍の一年に、今年も卯まく行きますように！」@オンライン
- ◆ 3 / 18 (土) 赤尾広明 大感謝祭@吹田市文化会館

### ◎勉強会

- ☆ 7 / 10 (日) 音声認識リモコン『LisPee360』(製品説明会) @オンライン
- ◆ 7 / 16 (土) 全国頸損連・To be yourself 「介護リフト」@オンライン
- ◆ 10 / 15 (土) 全国頸損連・To be yourself 「就労」@オンライン
- ◆ 11 / 19 (土) 全国頸損連・To be yourself 「ひとり暮らし1-2」@オンライン
- ★ 1 / 28 (土) 大阪急性期・総合医療センター  
「第6回災害リハビリテーション支援研修会」@オンライン
- ◆ 2 / 4 (土) 当事者が参加する防災訓練(大阪市都島区)@都島中学
- ◆ 2 / 18 (土) 排泄シンポジウム@ミント神戸17階+オンライン  
「頸髄損傷者の生活に求められる排泄環境」
- ◆ 2 / 26 (日) 全国頸損連・To be yourself 「ひとり暮らし1-3」@オンライン

### ◎相談対応 9件(電話やオンラインによる相談対応)

### ◎機関紙発行 頸損だより 4回発行 / 事務局通信 2回発行

- ・ 6 / 12 (日) 頸損だより夏号No.162発送  
特集：身体ケア学習会  
「コロナ感染症と頸損者の地域生活/Part2」
- ・ 9 / 11 (日) 頸損だより秋号No.163発送  
記事 「第5回災害リハビリテーション支援研修会報告」
- ・ 12 / 18 (日) 頸損だより冬号No.164発送  
記事 「PICKUP NEWS(国連の障害者権利委員会からの勧告)」
- ・ 3 / 12 (日) 頸損だより春号No.165発送  
特集：「一人暮らしの準備」アンケート結果報告&インタビュー

### ◎役員会

- ・ 4 / 10 (日) 4月期役員会 オンライン・10 / 16 (日) 10月期役員会 オンライン
- ・ 5 / 15 (日) 5月期役員会 オンライン・11 / 6 (日) 11月期役員会 オンライン
- ・ 6 / 12 (日) 6月期役員会 オンライン・12 / 18 (日) 12月期役員会 CILあるる
- ・ 7 / 10 (日) 7月期役員会 オンライン・1 / 8 (日) 1月期役員会 オンライン
- ・ 8 / 7 (日) 8月期役員会 オンライン・2 / 12 (日) 2月期役員会 オンライン
- ・ 9 / 11 (日) 9月期役員会 オンライン・3 / 12 (日) 3月期役員会 CILあるる

### ◎会議等

- ☆ 4 / 24 (日) 大阪頸損連絡会支部総会@オンライン
- ◆ 6 / 4・5 (土・日) 全国頸損連絡会総会・愛媛大会@オンライン

- ◆ 6 / 8 (水) アクセス関西ネットワーク総会@オンライン
- ◆ 9 / 4 (日) 全国頸損連絡会代表者会議 (秋) @オンライン
- ◆ 12 / 15 (木) 大阪市オールラウンド交渉@天王寺区民センター+オンライン
- ◆ 12 / 16 (金) 大阪市オールラウンド交渉@天王寺区民センター+オンライン
- ◆ 3 / 5 (日) 全国頸損連絡会代表者会議 (春) @姫路+オンライン

◎実行委員会・準備会

- ☆ 大阪頸損連 新年会実行委員会@オンライン  
11 / 8、12 / 19

◎その他

- ☆ 頸損連呼吸器使用メンバー情報交換&近況報告会
  - 第44回 4 / 16 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第45回 6 / 26 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第46回 8 / 20 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第47回 9 / 18 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第48回 10 / 15 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第49回 11 / 19 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第50回 1 / 21 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第51回 3 / 25 情報交換交流会 ZOOM 勉強会

★ 頸損ピアサポートグループ活動

- 5 / 28 (土) 大阪急性期・総合医療センター「第18回ピアサポートの集い」オンライン
- 9 / 17 (土) 大阪急性期・総合医療センター「第19回ピアサポートの集い」オンライン
- 1 / 28 (土) 大阪急性期・総合医療センター「第20回ピアサポートの集い」オンライン
  
- 6 / 25 (土) 星ヶ丘医療センター ピアサポート「受傷後の経験談 Part48」オンライン
- 10 / 29 (土) 星ヶ丘医療センター ピアサポート「受傷後の経験談 Part49」オンライン
- 2 / 25 (土) 星ヶ丘医療センター ピアサポート「受傷後の経験談 Part50」オンライン

## 兵庫頸髄損傷者連絡会

2022(令和4年)

.4.9	全国頸損連絡会 To be yourself「電動車椅子」 (坂上、宮野、伊藤、土田、橘、米田、木戸、島本)
.4.10	兵庫頸損連絡会・支部総会オンライン(坂上、宮野、木戸、伊藤、土田、米田、橘、島本)
.4.17	日本マニション学会・要介助委員会分科会リモート報告 オンライン (宮野・島本)
.4.19	兵庫医科大学・講義(島本)
.4.26	神戸大学・リモート講義 (宮野)
.5.7	兵庫頸損連絡会・ランチ交流会 オンライン (坂上、木戸、伊藤、米田)
.5.15	バリアフリー調査(米田)
.5.24	神戸学院大学・講義 (米田)
.5.28	第9回合同シンポジウム テーマ:「障害当事者とコロナ禍を考える」(宮野、橘、木戸)
.5.31	川村義肢株式会社新入社員研修 (宮野)

.6.4~5	全国頸髄損傷者連絡会・全国総会オンライン(宮野、坂上、土田、伊藤、米田、橘、木戸)
.6.8~10	バリアフリー2022・福祉機器展(インテックス大阪)(宮野、橘、伊藤、島本)
.6.12	兵庫頸損連絡会・第4回おやつ交流会 オンライン(坂上、伊藤、土田、木戸、米田)
.6.26	第5回県リハ学習交流会 オンライン(米田、土田、伊藤、木戸、橘、宮野)
.7.2	兵庫頸損連絡会・ランチ交流会 オンライン(坂上、木戸、伊藤、土田、米田、竹村)
.7.4	神戸医療福祉専門学校・講義(宮野)
.7.10	『LisPee360』製品説明会(宮野)
.7.16	全国頸損連絡会 To be yourself「介護リフト」(宮野)
.8.6	兵庫頸損連絡会・おやつ交流会 オンライン(坂上、土田、伊藤、木戸、米田、桑原)
.8.20~21	第36回リハ工学カンファレンス from 中国・四国支部 オンライン(宮野、木戸、橘)
.8.27	ホテル日航姫路見学(米田)
.9.3	兵庫頸損連絡会・ランチ交流会 オンライン(坂上、木戸、伊藤、米田)
.9.4	全国代表者会議 オンライン(坂上、宮野、木戸、伊藤、土田、米田、橘、島本)
.9.25	兵庫頸損連絡会・秋の大バーベキュー～大会(明石市大蔵海岸) (坂上、宮野、伊藤、土田、米田、橘、竹村、吉田一)
.10.1	兵庫頸損連絡会・おやつ交流会 オンライン(木戸、土田、伊藤、米田)
.10.5~7	第49回国際福祉機器展 HCR2022(東京ビッグサイト)(宮野)
.10.9	第6回県リハ学習交流会 オンライン(米田、土田、伊藤、木戸、橘、宮野)
.10.13	関西学院大学・講義(宮野)
.10.15	全国頸損連絡会 To be yourself「就労」(坂上、宮野、伊藤、土田、橘、米田、島本)
.10.29	4都県合同交流会 オンライン(宮野)
.11.5	兵庫頸損連絡会・ランチ交流会 オンライン(木戸)
.11.6	リハ工学協会・関西支部セミナー「電動車椅子製作における地域格差について」 (宮野、坂上、土田、伊藤、橘、島本)
.11.13	兵庫頸損連絡会・定例会(木口記念会館&オンライン) (会場:坂上、伊藤、土田、米田)(オンライン:宮野、橘、木戸)
.11.18	甲子園短期大学・講義(宮野)
.11.19	全国頸損連絡会 To be yourself「一人暮らし」(橘、吉田一)
.12.3	兵庫頸損連絡会・おやつ交流会 オンライン(坂上、土田、伊藤、木戸、米田)
.12.8	公益財団法人神戸やまぶき財団助成金申請説明会(土田、島本、橘、米田)
.12.18	兵庫頸損連絡会・忘年会(ニューミュンヘン 神戸フラワーロード店) (坂上、宮野、木戸、土田、伊藤、橘、米田、竹村、桑原)

2023(令和5年)

.1.7	兵庫頸損連絡会・ランチ交流会 オンライン(坂上、伊藤、木戸、土田、桑原、米田)
.1.15	大阪頸損連絡会・新年会 オンライン(木戸)
.1.18	兵庫県立有馬高等学校福祉科・講義(土田)
.1.28	第6回災害リハビリテーション支援研修会 オンライン(坂上、伊藤、橘、米田、島本)
.2.4	令和4年度 兵庫県リハビリテーション協議会第2回理事会 オンライン(島本)

.2.4	兵庫頸損連絡会・おやつ交流会 オンライン(坂上、土田、伊藤、木戸、米田)
.2.18	全国頸髄損傷者連絡会・排泄シンポジウム「頸髄損傷者の生活に求められる排泄環境」(神戸学院大学神戸三宮サテライト&オンライン)
.2.25	第7回県リハ学習交流会(坂上、宮野、米田、土田、伊藤、木戸、橘、島本)
.2.26	全国頸損連絡会 To be yourself「一人暮らし」(坂上、橘、木戸、宮野)
.3.5	全国頸損連代表者会議(姫路市)(BIZ SPACE 姫路&オンライン) (会場：坂上、宮野、米田、土田、橘、島本)(オンライン：木戸、伊藤)
.3.25	兵庫頸損連絡会・会計会議(オンライン)(島本・宮野)

#### 役員会

2022.4.2	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)
2022.5.14	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)
2022.6.11	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)
2022.7.9	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)
2022.8.13	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)
2022.9.10	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)
2022.10.8	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)
2022.11.12	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)
2022.12.14	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)
2023.1.8	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)
2023.2.11	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)
2023.3.11	兵庫頸損連絡会・役員会(オンライン会議)

#### 全国総会・兵庫大会 実行委員会

2022.5.14	第1回 実行委員会(オンライン会議)
2022.6.11	第2回 実行委員会(オンライン会議)
2022.7.9	第3回 実行委員会(オンライン会議)
2022.8.13	第4回 実行委員会(オンライン会議)
2022.9.10	第5回 実行委員会(オンライン会議)
2022.10.8	第6回 実行委員会(オンライン会議)
2022.11.12	第7回 実行委員会(オンライン会議)
2022.12.2	第8回 実行委員会(オンライン会議)
2023.1.8	第9回 実行委員会(オンライン会議)
2023.1.22	第10回 実行委員会(オンライン会議)
2023.2.5	第11回 実行委員会(オンライン会議)
2023.2.19	第12回 実行委員会(オンライン会議)
2023.3.11	第13回 実行委員会(オンライン会議)
2023.3.19	第14回 実行委員会(オンライン会議)

全国総会・兵庫大会 実行委員会事務局打ち合わせ

2022.11.20	第1回 事務局打ち合わせ (米田、島本、伊藤、橘、土田)
2022.12.9	第2回 事務局打ち合わせ (米田、島本、伊藤、橘、土田)
2023.1.13	第3回 事務局打ち合わせ (米田、島本、伊藤、橘、土田)
2023.1.29	第4回 事務局打ち合わせ (米田、島本、伊藤、橘、土田)
2023.2.12	第5回 事務局打ち合わせ (米田、島本、伊藤、橘、土田)
2023.2.25	第6回 事務局打ち合わせ (米田、島本、伊藤、橘、土田)
2023.3.12	第7回 事務局打ち合わせ (米田、島本、伊藤、橘、土田)

ピアサポート

2022.5.21	第18回ピアサポートの集い オンライン(木戸、米田)
2022.9.17	第19回ピアサポートの集い オンライン(木戸、伊藤、米田)
2022.10.29	星ヶ丘ピアサポート オンライン(木戸)
2023.1.28	第20回ピアサポートの集い オンライン(木戸、米田)
2023.2.25	星ヶ丘ピアサポート オンライン(木戸)

人工呼吸器使用者の集い

2022.4.16	情報交換交流会 ZOOM 勉強会 オンライン(米田)
2022.6.26	情報交換交流会 ZOOM 勉強会 オンライン(米田)
2022.8.20	情報交換交流会 ZOOM 勉強会 オンライン(米田)
2022.9.18	情報交換交流会 ZOOM 勉強会 オンライン(米田)
2022.10.15	情報交換交流会 ZOOM 勉強会 オンライン(米田)
2022.11.19	情報交換交流会 ZOOM 勉強会 オンライン(米田)
2023.1.21	情報交換交流会 ZOOM 勉強会 オンライン(米田)

セルフヘルプ

2022.11.4	セルフヘルプ(鳥取在住) 電話対応(米田)
-----------	-----------------------

縦横夢人編集会議

2022.5.2	第36号編集会議 オンライン(橘、吉田一、島本卓)
2022.7.18	第37号編集会議 オンライン(橘、吉田一、島本卓)
2022.7.31	第37号編集会議 オンライン(橘、吉田一、島本卓)
2022.10.31	第38号編集会議 オンライン(橘、吉田一、島本卓)
2023.2.12	第39号編集会議 オンライン(橘、吉田一、島本卓)

機関誌発行

兵庫支部機関誌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦横夢人 春 36号 特集『排泄の事例報告』 2022年5月14日発行</li> <li>・縦横夢人 夏 37号 特集『コロナ感染顛末記』 2022年8月15日発行</li> <li>・縦横夢人 秋 38号 特集『頸食②』 2022年11月21日発行</li> <li>・縦横夢人 冬 39号 特集『ロードマップ 住まい・リフォーム編』 2023年2月15日発行</li> </ul>
---------	--

## 香川頸髄損傷者連絡会

令和4年(2022年)		
4月3日(日)	お花見	新型コロナ感染防止の為中止
4月24日(日)	介護保障WG、第1回ピアサポートWG	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
5月	全国脊髄損傷者連合会 香川県支部 総会	新型コロナの為書面決議に変更
5月15日(日)	通常理事会	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
5月22日(日)	介護保障WG、第2回ピアサポートWG	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
6月4日5日	第21回全国脊髄損傷者連合会 総会	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
6月5日(日)	通常理事会	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
6月26日(日)	介護保障WG	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
7月24日(日)	食事会(琴弾廻廊)	新型コロナ感染防止の為中止
7月26日(火)	第4回移動等円滑化評価会議四国分科会	
	参加者 会員1名	高松サンポート合同庁舎
7月31日(日)	介護保障WG	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
8月21日(日)	第42回(公社)全国脊髄損傷者連合会中四国ブロック会議	
	参加者 会員1名	Web会議ツール Zoom
8月28日(日)	介護保障WG	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
10月20日(木)	香川障がいフォーラム定例会	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
10月23日(日)	介護保障WG	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
10月30日(日)	BBQ	国営讃岐まんのう公園
	参加者 会員6名	
11月13日(日)	四国頸損の集い2022	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
11月27日(日)	介護保障WG	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
12月15日(木)	香川障がいフォーラム研修会	Web会議ツール Zoom
	参加者 会員1名	
12月25日(日)	介護保障WG	Web会議ツール Zoom

	参加者 会員 1 名	
令和 5 年(2023 年)		
1 月 15 日(日)	新年会	リール
	参加者 会員 6 名	
1 月 15 日(日)	勉強会 (経肛門的洗腸療法)	リール
	参加者 会員 5 名	
2 月 26 日(日)	介護保障 WG	Web 会議ツール Zoom
	参加者 会員 1 名	
3 月 1 日 (水)	四国における駅の無人化に伴う安全・円滑な駅利用に関する意見交換会	
	参加者 会員 1 名	Web 会議ツール Zoom
3 月 18 日(土)	役員会	Web 会議ツール Zoom
	参加者 会員 4 名	
毎月第 2 土曜日	頸損オンラインランチミーティング	Web 会議ツール Zoom

## 愛媛頸髄損傷者連絡会

－2022 年度－

- 4 月 Zoom 交流会 part15 4 月 26 日 (水) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会  
5 月 Zoom 交流会 part16 5 月 31 日 (水) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会  
6 月 Zoom 交流会 part17 6 月 28 日 (水) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会  
7 月 Zoom 交流会 part18 7 月 26 日 (水) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会  
8 月 Zoom 交流会 part19 9 月 6 日 (水) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会  
9 月 Zoom 交流会 part20 9 月 27 日 (水) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会  
10 月 Zoom 交流会 part21 10 月 25 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会  
11 月 第 16 回四国頸損の集い 2022 【中止】  
11 月 6 日 (日) 13:00～15:30 対面交流会  
11 月 13 日 (日) 13:30～15:00 場所 : Zoom ミーティングオンライン交流会  
Zoom 交流会 part22 11 月 22 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会  
12 月 Zoom 交流会 part23 12 月 27 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会

2023 年

- 1 月 Zoom 交流会 part24 1 月 31 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会  
2 月 Zoom 交流会 part25 2 月 28 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会  
3 月 Zoom 交流会 part26 3 月 28 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使った交流会

コロナウイルスが猛威を振るう中、対面での交流会を模索しましたが、実現することは出来ませんでした。四国頸損の集いも参加者が集まらず、次週にオンライン交流会を開く流れになりました。しかし、オンラインが悪いというわけではなく、体調・移動距離・天気を考えず、自宅から気軽に交流会へ参加できることは、頸髄損傷者にとって大きな経験をしているように感じています。今後の状況次第では、対面での交流会を再開の方向ですが、オンラインでの良さも残しつつ愛媛の活動を再開していきたいと



思います。

来年度は愛媛で全国脊髄損傷者連合会との合同で、総会を開催する方向が検討されています。みなさまに楽しんで頂ける準備をしていきたいと思えます。ぜひ 2024 年は愛媛でお目にかかりましょう。

## 徳島頸髄損傷者連絡会

2022 年度

2022/05	総会	未開催	
2022/06	全国頸髄損傷者連絡会総会	Zoom	会員 1 名
2022/10	秋の行事	未開催	
2022/11	四国頸損の集い	中止	
2023/01	新年会	未開催	

## 九州頸髄損傷者連絡会

2022 年度は滞りなく活動をしていましたが、担当者が体調不良のため、報告書の提出が間に合いませんでした。

## 福島連絡所(福島頸損友の会)

2022 年

- ・ 4 月 24 日 (日) 機関誌『頸損』136 号配布
- ・ 6 月 4 日 (土)、5 日 (日) 2022 年度 全国頸髄損傷者連絡会全国総会
- ・ 8 月 19 日 (金) 機関誌『頸損』137 号配布
- ・ 10 月 29 日 (土) 「第 12 回 4 都県合同交流会 (オンライン)」  
時 間 : 13:00~17:00
- ・ 11 月 30 日 (水) 市民講演会「コロナ禍の看取り」時間 : 14:00~16:00
- ・ 12 月 22 日 (木) 機関誌『頸損』138 号配布

2023 年

- ・ 3 月 5 日 (日) 「2023 年春の全国代表者会議・WEB 会議)」に出席

◆福島県の窓口として、

「福島頸損友の会」ホームページ・下記アドレスにて活動状況、情報提供、絵画展等を掲載。(スマホでも絵てがみ&絵画展を観ることができます。) 「障がい者の旅行を考える会」の国内外旅行の動画もご紹介しております。

<http://fukushima-keitomo.site/>

## 令和4年度 全国頸髄損傷者連絡会 収支計算書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

### 収入の部

科目	金額
前期繰越	2,091,829
本部会費	38,500
本部運営分担金	531,000
寄付金等収入	1,202,072
事務諸経費	25,565
機関紙等売上代金	39,480
受取利息	2
合計	3,928,448

### 支出の部

科目	金額
団体加盟費	62,366
事務所使用料	180,000
事務諸経費	297,266
通信・発送費	179,883
機関紙等印刷・編集費	388,080
会議費	51,815
寄付金等収入	13,500
雑費	6,028
旅費交通費	46,960
次期繰越金	2,702,550
合計	3,928,448

上記のとおり報告します。

令和5年4月1日

会計

三ツ井 真平



令和4年度の会計について監査を執行し  
収支は適正であり会計報告は正しく表示されていることを認めます。

令和5年4月1日

会計監査

三好 宏和



## 頸損者を取り巻く現状と課題

### ■障害者の権利保障

2022年8月、障害者権利条約の日本の建設的対話がスイスのジュネーブにある国連本部で行われた。現地には100人を超える障害者団体などが駆け付け、ロビー活動や傍聴を行い初の対日審査を見守った。しかし、日本政府からは施設を肯定するような回答が出るなど、条約の趣旨とはかけ離れたやり取りが続いた。権利委員会のキム・ミヨン副議長は閉会の挨拶で「パラレルレポートが示す実状と、政府の報告に大きなギャップが見受けられる」と述べ、「人生をかけて障害者の権利のために闘ってきた人達と、真摯に対話してください」と涙を流した。

障害者団体のロビー活動の成果もあり、9月9日に権利委員会から日本政府へ出された総括所見はかなり踏み込んだ内容であった。中でも「脱施設」と「インクルーシブ教育」の2点については「勧告(最も必要な課題)」として示された。

当会としても、この総括所見を追い風にして、隔離、分離といった負の歴史にも、家族介護依存にも戻ることなく地域移行が進められるよう、より一層関係団体との連携を維持強化して、立法府、行政府への積極的な働きかけを行う必要がある。

また、障害者への合理的配慮の提供を民間の事業者にも義務付けた障害者差別解消法の改正法が2021年5月に成立しており、公布日である2021年6月4日から起算して3年以内に施行される。障害者の個別の事情を踏まえた適切な配慮が行われることが期待できるが、配慮の範囲は事業者によって異なるため、具体的な配慮内容について、適切なガイドライン整備が必要となる。

本年度は、中央省庁の対応要領・対応指針の改定が予定されている。当会が加盟しているDPI日本会議では差別事例の収集を行い、約300の事例を差別解消法PTで分類作業し、主な省庁ごとに意見書を作成し、働きかけを行う。障害者差別解消法の改正により、社会全体がより包括的なものになり、多様なニーズを持つ人々が自分らしく生きることができると期待される。社会の実現を目指す必要がある。

#### 【課題】

- ◎障害者権利条約の総括所見を追い風に、長期入所を余儀なくされている頸損者の地域移行をサポートする。
- ◎障害者差別解消法がより実効性のある法律になるように取り組む。障害者が差別や偏見によって、社会参加が制限されないよう継続した働きかけを行う。

### ■介助制度

令和4年度介護報酬改定により、介護・障害福祉職員の処遇改善について、「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」を踏まえ、収入を3%程度(月額平均9,000円相当)引き上げるための措置を講じることとなったが、我々の目に見える形での改善につながった感はなく、現状の介助者不足は今もなお続いている。介助者不足が、現場で働く介助者の更なる労働負担を課し、介助サービスの質の低下につながっている。当会では、介助者の労働環境の改善(腰痛予防、機器の導入)を目的にセミナーや勉強会を実施し、啓発に取り組むとともに、これらにまつわる関連制度(地域生活支援事業における日常

生活用具給付等事業の見直し等)の改善を厚生労働省に要求しているが、改善には至っていない。

令和2年10月から実施されている市町村地域生活支援事業の「雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業」、障害者雇用納付金制度に基づく助成金の「重度訪問介護サービス利用者等職場介助助成金」と「重度訪問介護サービス利用者等通勤援助助成金」により、障害者が働きやすい環境づくりが推進されているが、全国的にもこれらの制度を採用する自治体は少なく、利用実績の向上にはつながっていない。当会でも、機関誌での情報提供やセミナーを実施するなど、頸髄損傷者の就労につながるよう取り組んでいるが、従来の制度に比べて事務手続きがきわめて煩雑であり、生活場面によって活用できる制度が分断されてしまう問題(障害者が体調不良による欠勤や、就労中に失禁や他の理由により早退する場合に、重度訪問介護などの支給決定時間数が足りなくなる)が生じるなど、現状では、重度障害者の職場介助の問題を改善するには至っておらず、就労する頸髄損傷者が増えたとはいえない。

高齢頸髄損傷者の問題として、当会の会員から65歳になって以降、介護保険が適用されたことにより生活の質が低下したという、数多く寄せられる相談に対し、機関誌での啓発記事掲載や「65歳問題」に関する勉強会を開催するなど、不安なくサービスを活用した生活が送れるよう情報提供に努めているが、頸髄損傷者の不安を払拭するには至っていない。

これらの問題を解決するためにも、また我々の自立と社会参加が保障されるよう、積極的に声をあげる必要がある。そのためにも、全国の各支部と連携し、他団体とも協働し、各地域において我々自身が障害者施策に積極的な意見発信を行っていかねばならない。

#### 【課題】

◎インクルーシブ社会の実現に向けて、介助制度の拡充を求めていく。

◎頸髄損傷者の地域での自立生活が確立できる介助制度の拡充を継続的に求めていく。

◎65歳問題により地域生活が困難に陥らないよう、障害者施策に対する積極的な意見発信をしていく。

## ■交通・まちづくり

我々頸髄損傷者が求めている「誰もが住みよい社会」の中で、「交通・まちづくり」は、社会参加のための最も重要な要素の一つである。「誰もが使える公共交通機関」とは、車椅子であってもなくてもスムーズに移動ができることであり、とりわけ頸髄損傷者の生活には欠かすことのできないものである。

2021年4月1日にバリアフリー法の一部が改正、施行された。様々な義務が追加され、新設の公共交通機関及び公共施設においては、基本的には利用できる状況になっている。しかし、実際にはまだ旧施設も多く存在しているのが事実である。全ての施設において、できる限り早急なバリアフリー化を訴えなければならない。そして、バリアフリー化のスピードには、地域間格差があり、移動困難者にとってこの格差はQOL低下に繋がりがかねない。全国どこでも誰でも利用できる交通・まちづくりを引き続き求めていく。

近年、各首都圏で障害者用ICカードの利用が開始された。鉄道等の利用が簡素化されたが、まだ使用地域などの制限がある。早急にどこでも利用できるよう求めていく。

旅客車両等については、昨年に引き続き、地域や車両にも進展が見られている。特急車両における新たなバリアフリー対策については、新幹線車両に限り1編成あたり3~6以上の車椅子スペースが義務付けられた。今後、特急車両や普通車両についても、全国どこでもスマートに利用できるように求め

ていく。UD タクシーにおいては、一部の地域では多く見られるようになったが、まだ全国どこでも簡単に乗車できる程は、普及はしていない。頸髄損傷者は、多機能型電動車椅子を利用する者も多く、その者にとっては、乗車しづらい車両もある。引き続き、より使いやすい改良が行われるよう、障害者団体等とともに、要望していく。

多様性を尊重する社会になりつつある中で、学校施設のバリアフリー化や小規模店舗等のバリアフリー化が進められている。文部科学省は、2025年度末までに学校施設のバリアフリースロープ、エレベーター等の整備目標がそれぞれ掲げられた。自分が望む教育が受けられるよう、引き続き声をあげていかなければならない。また、学校や公共施設等は災害時の緊急避難場所になるため、障害がある者でも容易に利用できるようにしていかなければならない。様々なニーズに応じる事により、選択肢が増え、よりよい生活環境が生まれていく。これらのバリアフリー化を進めるためにも、社会に対してより一層の理解を求めなければならぬ。そのためには、積極的に外に出て店舗や施設を利用し、改善が必要であれば声を上げていかなければならない。

アクセスは権利である。「思いやり」や「やさしさ」という優位な立場からの救済や慈悲ではなく、障壁に不利益を被る人の立場に立って配慮し、尊厳が傷つけられない社会参加ができる社会にするための取り組みを行う必要がある。

#### 【課題】

- ◎生活の中で障壁となる事例を集め、他団体とも協力して、国に声を届け、解決策を求めていく。
- ◎各種会議、研修等に、積極的に参画し、当事者の声を届けること。
- ◎学習会開催などを通して、アドバイザー、講師として活躍できる人材の育成を行う。

## ■福祉用具(補装具・日常生活用具)

頸髄損傷者の生活には福祉用具の適切な利用が欠かせない。住環境を整備し福祉用具を適切に活用することで、自分でできることを増やし移動を自分の意思で行うことが自分らしくあるために重要になる。

福祉用具の適切な選定には、専門家のアドバイスのもとに当事者の意見が反映されなければならない。しかし、近年専門性の高い福祉用具を扱う業者は減少し、居住する地域に業者がない場合が多い。ましてや、各自治体の給付基準が新しい機器に対応していない場合や、必要な機器の適切な給付判定を行うことができない医療機関があるため、機器の給付が認められないケースが増えている。適切な判定基準のもと、必要な人へ必要な福祉機器を提供するシステムが必要である。

「To be yourself」と題して、参加者同士が自由に話し合い情報提供・収集や課題解決を目指すセミナーを開催し、福祉用具では「電動車椅子」「介護リフト」をテーマとして取り上げ、継続的なディスカッションを実施している。問題を抱える頸髄損傷者や、新しい福祉用具を利用しはじめたユーザーが繋がり、専門家も一緒にディスカッションに加わることで、今までの生活にとらわれない新しい環境を提案する場となっている。

しかし、補装具費給付制度や日常生活用具給付等事業の自己負担については地域格差が生じている。あわせて介護保険への移行では、現状の用具が給付されるかなどの不安が広がっている。情報提供に加え、地域における福祉用具給付の実態と自己負担の現状を把握し、給付に対して地域格差を生じさせない制度となるよう働きかけなければならぬ。

当会は、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会と連携し、福祉機器・用具の発展および普及に取り組んでいる。福祉機器・用具を用いて頸髄損傷者の生活を豊かにするためにも、専門家と共に相談支援体制を強化し、ネットワークを広げていかなければならない。

### 【課題】

- ◎自立生活に必要な機器が、適確、迅速、安価に継続的に入手できるよう求める。
- ◎福祉用具の適切な選択、使用方法を指導助言できるネットワークの構築。
- ◎自立生活に必要な機器にかかる自己負担の地域格差解消に向けて準備する。

## ■医療関係

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が国内で確認され3年が過ぎた。ウイルスは変異を繰り返し、重症患者の増加により医療体制が崩壊した地域もあった。ワクチン接種は段階的に接種間隔が短縮され5回目が実施された。この間、人工呼吸器を使用する高位頸髄損傷者を含む呼吸器系の疾患に弱い頸髄損傷者（以下、頸損者）が感染した場合でも、自宅療養を余儀なくされる事例が多くあり、感染後の後遺症が原因で会活動ができなくなり退会する者もいた。また、入院したケースでは、頸損者に向けた入院中のケアが不十分で、コロナは回復し退院したが、帰宅後に感染前の生活に戻れなくなり辛い日々を送っているという声もある。頸損者にとって、緊急入院中の医療的ケアも必要ではあるが、退院後の生活を維持するための社会的ケアの重要性を医療従事者に広く伝え知ってもらう必要がある。併せて、これから始まる with コロナ禍の自立生活を維持していくために必要な在宅医療支援の制度と体制の充実に加えて福祉の連携が求められる。

同時に医療費削減の影響により、受傷後180日程度でリハビリを打切られる状況は変わらず続いている。2023年2月に国土交通省において、自動車事故による重度の脊髄損傷者への維持期・慢性期におけるリハビリの機会を確保するための施設の設置基準等が策定された\*1。しかし、病床設置地域は東日本、西日本に各2病院、病床設置数は1病院4床で合計16床を目処とされていることや、実施主体が自動車事故対策機構（ナスバ）であることから\*2、自動車事故以外の脊髄損傷者も対象となるのか、病院数や病床数が増えていくのかを注視していく必要がある。

近年70歳以上の高齢者で日常生活の動作やはずみで、頸髄の中心部を圧迫しておこる「中心性頸髄損傷」が増えている。外傷とは違った麻痺が残るため治療のアプローチも変化する。若くして受傷した頸損者の高齢化も進みはじめている。受傷時の年齢に違いはあるが、地域で自立生活を営む高齢頸損者の増加により、地域医療に専門的な認識と体制が求められると共に、地域で医療を担う医師・看護師にも頸髄損傷という障害について知ってもらうことが重要である。

\*1 国土交通省 Press Release 令和5年2月14日 自動車局保障制度参事官室 重度脊髄損傷者に対応した療護施設に係る委託基準等を策定しました

\*2 重度脊髄損傷者の中長期入院の受入れ環境整備に関する基準等について

### 【課題】

- ◎医療的ケアの学習会を開催することで当事者と医療従事者との繋がりを深め、高位頸髄損傷者に対する在宅医療支援制度および体制の充実化に加え、With コロナ禍の自立生活に向けた在宅医療と福祉（介助制度の柔軟な運用）の連携を求める。

- ◎新しい重度脊髄損傷者の中長期入院の受入れ環境整備基準の推進と更なる充実を求める。
- ◎高齢者の受傷と高齢化によって高齢頸髄損傷者が増加していることから、地域での自立生活を維持していくため地域医療やクリニックにも専門的な認識と体制の充実を求める。

## ■住宅環境

頸髄損傷者が住み慣れた地域で安心して生活を送るためには、生活の基盤となる住まいの確保が欠かせない。車椅子や電動ベッド等の福祉機器を使用する頸髄損傷者が暮らすためには、室内に段差がなく、十分な通路幅やスペースがあることが求められる。住宅のバリアフリー化については、平成 13 年に国土交通省より「高齢者が居住する住宅の設計に係る指針」が告示され、身体機能が低下した場合でも住み続けられるような住宅の設計上の配慮事項が定められ、新たに建設される公営住宅、都市再生機構住宅（UR）については原則バリアフリーを標準仕様とされている。

しかし、住宅全体から見ると建築当初からバリアフリーに対応している住宅はいまだに少なく、頸髄損傷者が暮らすためには多くの場合で住宅改修が必要になるのが現状である。頸髄損傷者の生活にあった住宅改修について適切なアドバイスのできる人材が少なく、思い通りの生活を送れていない頸髄損傷者が少なからずいる。自治体の助成制度が当事者のニーズに必ずしも合っているとは言えず、住宅改修にかかる費用負担も大きい。当事者のニーズに合わせた助成項目や助成額の見直しが必要である。

賃貸住宅では車椅子利用者が入居を拒否される事例がいまだに多くあり、住居の確保に苦勞する人は多い。安価で入居ができる公営住宅が、住宅困窮者のセーフティーネットになり得るべきだが、全住宅に占める割合は極めて低い。バリアフリーに対応した公営住宅はさらに少なく、利便性の良い特定の住宅に応募が集中する傾向にある。新規に着工される公営住宅の数は近年減少傾向にあるが、障害者の住まいの確保という点からバリアフリーに対応した公営住宅の割合を今後も増やしていく必要がある。

住宅は地域で生活していくうえでの基盤となる場所である。助成制度と専門知識を持つ人材のさらなる拡充、それらの情報を当事者に提供できる体制の構築が必要である。

### 【課題】

- ◎バリアフリーに対応した住宅のさらなる整備。
- ◎住宅整備・改修助成制度の改善を求める（助成費用を適正額にする）。
- ◎住宅改修についての専門知識を持つ人材のさらなる拡充を行う。

## ■所得保障・就労

頸髄損傷者は、四肢の麻痺や呼吸器疾患などの身体的な問題によって、就労に制限がある。その多くは、給付水準の上まらない障害年金や特別障害者給付金、各種福祉手当等によって、最低限の所得保障を得ながら生活をしているが、物価の高騰や、エネルギー資源に端を発する公共料金の値上げなどに不安を抱えている。安定した収入を求めようとしても、体調管理や通勤手段等の問題があるため、一般就労は容易ではない。

令和 4 年 12 月に、障害者等の地域生活や就労の支援の強化等によって、障害者等の希望する生活を

実現するため、障害者総合支援法の一部が改正され、これに合わせて、関連する法律（「障害者の雇用の促進等に関する法律」等）も改正された。厚生労働省が発表した「令和4年 障害者雇用状況の集計結果」では、民間企業に雇用されている障害者の数は61万3,958人で前年より2.7%増加し、期待が持てるようにも考えられるが、身体障害者の雇用者は前年より0.4%減っており、法定雇用率未達成企業が55,684社の中で、障害者を一人も雇用していない企業が32,342社（未達成企業の58.1%を占めている）という状況を考えると、頸髄損傷者が望む仕事に就き、自己実現を果たすにはまだ険しい道が待っている。当会でも、一人でも就労に結びつく頸髄損傷者が輩出できるよう、頸髄損傷者の就労事例を報告するセミナーの開催や、制度を活用した就労の情報などを提供しているが、成果が出ているとは言い難いのが現状である。

現在の日本では、頸髄損傷者が社会復帰する明確なビジョンを提供できるプログラムが存在していない。受傷後の安定期に入って、機能回復訓練と並行しながら、職能訓練を受けることのできる専門施設がいくつかはあるが、誰もが同じように訓練を受けられる状況にはない。すべての頸髄損傷者が、残存機能を最大限に生かして、職能訓練が受けられるシステムが求められる。

「働く」ことは、障害のあるなしにかかわらず、自己実現の1つであると考え。頸髄損傷者が、社会とつながり、集団の中で役割を持ち、収入を得て、人生のパートナーと家族を作る夢が持てるよう、当会がその環境づくりに取り組む必要がある。

#### 【課題】

- ◎安心して自立生活を送れるだけの障害年金、生活保護の支給額のアップを求める。
- ◎「在宅就労」の普及と定着、就労している頸髄損傷者の給与アップを求める。
- ◎日常生活動作の確立と職業訓練が専門に行えるリハビリテーションセンターを各地域につくり、社会復帰（復職や就職）出来るまでの一連のプログラムの提供を求める。

## ■女性の権利

「頸損解体新書 2020」の結果からもわかるように、女性頸髄損傷者が抱える課題として、非正規雇用の割合（男性19.6%、女性24.3%）が高いことやサービスとして介助者の性別の選択（同性介助）の希望、性に関する相談員の不足等が明らかになった。

当会では数年前よりこれらの解決に向けた課題として、女性リーダーの育成や定期的な学習会の開催を挙げているが、あまり活発な活動ができていないのが正直なところである。

一方で女性頸髄損傷者限定のSNSやオンラインでの交流会が定期的に行われ、安心して相談できる環境づくりができてきていること、参加メンバーが徐々に増えており、共感してもらえる仲間がいることは、孤独の解消やQOLの向上にもつながっていると思われ、活動の一步と言える。

近年、世界中の企業ではダイバーシティ&インクルージョン（D&I）が重要なテーマになっている。全ての人々が、性別やセクシュアリティ、障害の有無、国籍や人種、宗教や政治によって差別されることなく、一人一人が自分らしく働ける環境を作ることを意味する。世界でも女性リーダーの割合はまだまだ少数だが、小さな一歩を踏み出している。また女性をサポートするだけでなく、男性にも理解してもらう必要がある。「平等」を理解し同じ考えを持つ男性がいることで女性の権利が保障され、選ばれる道が開かれると考える。



これらは変えたいという気持ちがあっても一人ではなかなか前進できない。同じ志を持って支えてくれるフォロワーがたくさんいてはじめて結果につながると考えられる。そのためには会員の協力が必要不可欠である。当会として、もっと会員のニーズを拾い、自分事として考えるきっかけを作り、積極的に参加したいと思ってもらえる企画を検討していく必要がある。

**【課題】**

- ◎女性リーダーの養成。
- ◎女性頸損の交流の場の拡大。
- ◎専門家等との連携による学習会の開催。

# 2023 年度 活動方針提起

## ■活動の基本的な考え方

### 自分らしくあるために「Take Action(行動を起こす)」しよう！

当会は 1973 年(昭和 48 年)頸髄損傷者（以下、頸損者）有志 7 名が集まったことに始まり、本年第 50 回目の全国総会を開催する。設立以来、どんなに重い障害があっても、自律して生きられる社会を求めて交流・連帯し、生活を改善しながら個々の問題解決のために”Take Action (行動を起こす)”してきた。

結果、人権条約である「障害者権利条約（以下、条約）」批准のために、障害は個人ではなく社会にあるといった視点（社会モデル）で行った国内法の整備に対しても、私たち抜きで私たちのことを決めさせないという理念の下、障害の枠を超えて連帯して声を届け、それが政策反映されている。

新型コロナウイルス感染症が収まりつつある中、オンライン等も活用し、以前よりさらに”Take Action（行動を起こす）”していく必要がある。頸損者の生活困難原因を究明すると共に、条約の理念が権利侵害することなく各国内法に反映されているか、他団体とも協力して注視しながら、個々の頸損者が直面する問題の解決を目指していく。

2021 年 3 月、日本障害者フォーラムを中心に各障害者団体協力のもと、日本の総括所見用パラレルレポートは作成され、障害者権利委員会に提出された。我々が生きていくために必要な権利が示された。この条約を完全実施するために、各障害者団体や関連団体と協力をし、引き続き活動していく。

当会の目指す社会は、障害者権利条約の求める人権の守られる社会であり「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（通称：障害者差別解消法）」の差別の定義の明確化、民間事業者の合理的配慮の提供の義務化等、積み残された問題解決を目指す。障害者差別解消のためには、建設的対話を経て合理的配慮がなされることが重要であり、その延長上に共生社会の実現があると考えている。

また、引き続き障害者基本法他、関連法改正の動きも監視し、障害者権利条約の規定を法律に盛り込ませるように、法改正に向けた活動に積極的な協力を行っていく。

医療では、新しい再生医療の技術が日本で実用化され話題となっている。頸損者に希望をもたらすことは歓迎であるが、過剰な期待を持つことなく冷静に対応したい。また頸損者に必要なリハビリテーションが提供できない医療点数制度となつて久しく、結果、適切なリハビリサービスを提供できる病院・施設が減っている。医療・福祉分野における支援サービスについては、当事者の必要とするサービスと、現実制度のギャップを分析して、未だに多くある地域格差を無くし、「必要なサービスを、必要な人が、必要な時に」提供されるよう、政府に働きかけなければならない。

2020 年 1 月から流行した新型コロナウイルス感染症も終息の方向に向かいつつある。今後、新たな感染症などが発生した場合にも、早急な情報提供を行うとともに各関係所管に必要な対応を求めていく。

社会の一員としてあたりまえに生きていくこと、主体性が認められた社会人として生きることが出来る社会にすることが我々の目指すところである。「昭和」から生まれた行動が、「平成」のうねりで様々な法律の制定を実現させた。「令和」を真の共生の時代とする活動を展開していかなければならない。そのためには社会のために、ひとり一人が「何ができるのか？」を考えて行動していく必要があり、当会でもその行動に対してできる限りの協力をしていく。

## ■基本活動

### ひとり一人が行動しよう！

頸損者が尊厳を奪われることなく、真にひとりの人間として心豊かに生きるためには、自己信頼の回復が必要になる。それは困難を乗り越え、多くの成功・感動を体験することで取り戻すことができる。

当会には逆境をはねのけ、人生を取り戻した経験者や、幾多の失敗を糧に、次こそは上手くやると困難に挑む挑戦者が数多くいる。必要とする情報を提供して人生を取り戻す一助となるのが当会の最大の目標であり、孤独になりがちな頸損者のためにひとり一人が行動するセルフヘルプ活動を行っている。

頸髄損傷者連絡会は当事者団体ではあるが、情報の提供は会員、非会員を問わず提供することを会活動のひとつとしている。今年度も以下の項目を活動の柱として運動を続ける。

#### □頸損者へのセルフヘルプ、ピアサポートを積極的に実践

- ・各支部間の交流、支部のない地域での出張活動・招待活動等

#### □頸損者の抱える問題を共有化し、問題解決の道を具体的に探す

- ・代表者会議、支部間交流、頸損同士の交流によって問題の共有化を図る

#### □情報を収集し、頸損者及び関係機関等への情報提供をより充実させる

- ・機関誌・HPの内容充実、講演活動の充実

#### □障害の枠を超えた各分野との交流・活動

- ・障害者団体、公的機関、学会、教育機関、分野別メーカーとの交流や関連会合への出席

#### □他団体との統一行動

- ・介助、交通・まちづくり、制度改革などの課題を協力して行政への要請行動を行う

## ■活動重点目標

☆生活を向上させるための法律・制度・サービス改善交渉を行う

☆当事者の視点による意見を的確に伝えられる人材の育成を目指す

☆障害者支援を目的とする機関とのネットワークを拡げる

## ■分野別活動方針

### ●障害者の権利保障

◎障害者権利条約の総括所見を追い風に、長期入所を余儀なくされている頸損者の地域移行をサポートする。

◎障害者差別解消法がより実効性のある法律になるように取り組む。障害者が差別や偏見によって、社会参加が制限されないよう継続した働きかけを行う。

### ●介助制度

◎インクルーシブ社会の実現に向けて、介助制度の拡充を求めていく。

◎頸髄損傷者の地域での自立生活が確立できる介助制度の拡充を継続的に求めていく。

◎65歳問題により地域生活が困難に陥らないよう、障害者施策に対する積極的な意見発信をしていく。

## ●交通・まちづくり

- ◎生活の中で障壁となる事例を集め、他団体とも協力して、国に声を届け、解決策を求めていく。
- ◎各種会議、研修等に、積極的に参画し、当事者の声を届ける。
- ◎学習会開催などを通して、アドバイザー、講師として活躍できる人材の育成を行う。

## ●福祉用具（補装具・日常生活用具）

- ◎自立生活に必要な機器が、適確、迅速、安価に継続的に入手できるよう求める。
- ◎福祉用具の適切な選択、使用方法を指導助言できるネットワークの構築。
- ◎自立生活に必要な機器にかかる自己負担の地域格差解消に向けて準備する。

## ●医療関係

- ◎医療的ケアの学習会を開催することで当事者と医療従事者との繋がりを深め、高位頸髄損傷者に対する在宅医療支援制度および体制の充実に加え、With コロナ禍の自立生活に向けた在宅医療と福祉（介助制度の柔軟な運用）の連携を求める。
- ◎新しい重度脊髄損傷者の中長期入院の受入れ環境整備基準の推進と更なる充実を求める。
- ◎高齢者の受傷と高齢化によって高齢頸髄損傷者が増加していることから、地域での自立生活を維持していくため地域医療やクリニックにも専門的な認識と体制の充実を求める。

## ●住宅環境

- ◎バリアフリーに対応した住宅のさらなる整備を求めていく。
- ◎住宅整備・改修助成制度の改善を求める（助成費用を適正額にする）。
- ◎住宅改修についての専門知識を持つ人材のさらなる拡充を行う。

## ●所得保障・就労

- ◎安心して自立生活を送れるだけの障害年金、生活保護の支給額のアップを求める。
- ◎「在宅就労」の普及と定着、就労している頸髄損傷者の給与アップを求める。
- ◎日常生活動作の確立と職業訓練が専門に行えるリハビリテーションセンターを各地域につくり、社会復帰（復職や就職）出来るまでの一連のプログラムの提供を求める。

## ●女性の権利

- ◎女性リーダーの養成を行う。
- ◎女性頸損の交流の場を拡大させる。
- ◎専門家等との連携による学習会を開催する。

## 2023 年度 全国頸髄損傷者連絡会 予算(案)

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越	2,702,550	団体加盟費	80,000
本部会費	38,500	事務所使用料	180,000
本部運営分担金	580,000	事務諸経費	50,000
寄付金等収入	650,000	通信・発送費	200,000
		機関誌等印刷・編集費	500,000
		会議費	160,000
		旅費交通費	400,000
		予備費	50,000
		次期繰越	2,351,050
	3,971,050		3,971,050

※新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したため、通常の活動（対面式での活動）を想定した予算案として作成しています。

## 2023 年度 本部役員・事務局体制（案）

会 長	鴨治 慎吾（東京）（再任）
副 会 長	八幡 孝雄（東京）（再任）
	村田 恵子（京都）（再任）
	井谷 重人（愛媛 次期総会開催担当支部）（新任）
事務局長	宮野 秀樹（兵庫）（再任）
編 集 長	宮野 秀樹（兵庫）（再任：兼任）
会 計	三ツ井真平（愛媛）（再任）
会計監査	毛利 公一（香川）（新任）

事務局次長	鈴木 太（愛媛）（再任）
事務局長補佐	関根 彩香（本部）（再任）
事務局員	青山 和幸（岐阜・ホームページ担当）（再任）
	篠田 義人（岐阜・会計補佐&ML 管理担当）（再任）
	島本 義信（大阪）（再任）
	井谷 重人（愛媛）（再任）
	毛利 公一（香川）（再任）

相 談 役	三戸呂克美（兵庫）（再任）
	坂上 正司（兵庫）（再任）



